

令和5年度 包括的な支援体制の構築・整備に向けたモデル事業 県社協 HP 掲載用報告書

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、以下に事業の概要を分かりやすく、簡潔に記入してください。

社協名	厚木市社会福祉協議会
対象となる実践・ テーマ ※いずれか1つに○ をつける。	(1)行政および地域の関係機関・団体、担い手との協働による包括的支援体制構築の促進 (2)個別支援と地域支援の一体的推進、および「相談支援」「参加支援」「地域づくり」を意識した具体的実践の促進 (3)その他、包括的支援体制の構築に関わる取り組み
事業名	令和5年度厚木市社会福祉協議会 内部研修 「福祉まるごと相談体制の充実～個別支援と地域支援の一体的展開～」
<p>事業の概要〔事業の目的・取組みの概要・成果や参加者の様子・今後の展望等〕</p> <p>※活動の様子が分かる画像を2枚程度挿入して下さい。 ※各市町村社協ホームページ等にて本事業の掲載等を行う場合は、URLを記載して下さい。</p> <p>【事業の目的】</p> <p>本会が令和3年度から実施している「福祉まるごと相談」は、全職員が相談の窓口となることを目指していることから、相談援助の視点や基本姿勢、個別支援と地域支援の一体的な展開を学び、福祉まるごと相談の体制の充実を図ることを目的とした研修を実施した。</p> <p>【取組の概要】</p> <p>「全職員が窓口となる」の「全職員」とは？、「窓口」とは？、「相談の窓口となる」とは「何をすること」なのか？、「具体的に誰のどのような動きが求められるのか？」等について、グループワークを行った。それぞれの考え方を共有しながら自由に模造紙に記入しグループごとにとりまとめた。係や担当間の壁をなくし、スムーズでボーダレスな連携をめざすことを職員間で共有。</p> <p>【参加職員の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「断らない相談」は、係の壁を越えて対応した方が良いと思うので、他の係の仕事内容をもう少し把握したい。 ・一人で解決しようと悩まずに、誰かに相談しようと思った。係内の連携を深める必要があると感じた。 ・「これはあっちの係/担当の仕事だから」ではなく、実はすべてがつながっていることを意識し、他の職員が行っている事業の利用対象等は知っておかなくてはいけないと改めて思った。 ・改めて「厚木市社協」としてどう取り組んでいくべきか等見えてきた研修だった。 ・「社協の形に地域住民を当てはめていないか」という問いに、包括的支援体制を目指す姿と今の姿にまだまだ乖離があると気づいたが、組織に属する者としてどこまで動いていいものか悩んでしまうと思った。 ・係を超えてワークをしたことで、もっと日ごろの業務の中でも係にとらわれることなく取り組むことが求められていると感じた。また、その思いはどの職員にもあるということが確認できたので、今後の業務の中で活用していきたいと思う。 ・つなげるだけではなく、守備範囲を超える相談に対し、どのように対応していくのかは本会の課題だと感じている。 	

- ・「生きづらさを個人・本人の責任にしない」という視点と、「上流（地域）を見に行く」という視点に気づかされ、参考になった。
- ・よく言われる個別⇔地域の支援の考え方が具体的にわかったので、他係と相談する時に活かしたいと思った。

【成果・今後の展望】

この内部研修を通じ、包括的な支援の理解、福祉まるごと相談における大切な視点の理解を深めることができた。感想からもわかるように、福祉まるごと相談は「職員一人一人が“窓口”となる」ことの意識付けにもつながる研修となった。

講師の話しを受け、社協内部でもお互いが担っている事業や業務を知らなかったり、社協が提供しているサービスについて把握していないことが多く、まずは自分たちが「社協を知る」ことが課題の一つであると気付かされた職員も多くいた。

今後、講師から提供された資料を参考に、研修で実施したグループワークの“続き”を継続的に行いたい。また、「社協を知る」ために、具体的にできることや取り組みたいこと等を職員間で共有することもできる取組の一つであると感じている。

係や事業、担当がお互いにつながっていることを意識し、お互いが声掛けをし合いながらスムーズでボードレスな係間連携を行っていききたい。また、個別支援と地域支援を一体的に捉えた支援ができる組織となるように、生活課題を単に本人の責任にするのではなく、本人を取り巻く環境（地域）をどう捉えていくかという視点を大切にしながら、小さな取組から進めていきたい。

(研修の様子)

